

2026年4月14日

川崎重工業株式会社

損害保険ジャパン株式会社

川崎重工業と損害保険ジャパンがソフトバンクとともに船舶の安全運航を支える統合ソリューションの提供に向けた基本合意を締結

川崎重工業株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：橋本康彦、以下「川崎重工」）、損害保険ジャパン株式会社（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：石川耕治、以下「損保ジャパン」）、ソフトバンク株式会社（以下「ソフトバンク」）は、船舶の安全運航を支援するソリューションの提供に向けた基本合意を締結しました。今後、それぞれの強みを生かして、船舶における自動運航の社会実装を見据えた新たなソリューションの展開を目指します。



連携イメージおよび各技術・サービスの関係性

近年、海運業界では人手不足の進行や、それに伴う熟練船員への過度な依存に直面し、船舶航行における安全性の確保や運航効率のさらなる向上が重要な課題となっています。特に、離着岸など高度な操船技術が求められる場面においては、操船を的確に支援する技術の提供や、その技術を安心して社会に実装するためのリスク対応の両立が不可欠となっています。

このような背景の中、川崎重工が有する船舶の離着岸操船を先進的に支援する「安全離着岸支援システム」、損保ジャパンが持つ船舶保険分野における専門知識およびリスクマネジメントの知見を活用し、ソリューションの検討・開発に取り組みます。また、「安全離着岸支援システム」において、ソフトバンクが提供するセンチメートル単位で位置を測定する高精度測位サービス「ichimill（イチミル）」を活用します。操船支援技術や高精度測位サービス、リスク対策をそれぞれ活用することで、船舶運航の省力化を推進するとともに、事故リスクや万一の際の社会的影響への備えを含めた一連の支援を実現します。

■各社の役割とソリューションの概要

川崎重工業株式会社

船舶の離着岸操船を計画航路どおりに支援する「安全離着岸支援システム」を提供し、操船における認知、判断、実行の負荷を最低限に抑えることで、安定的で再現性の高い運航の実現を支援します。

損害保険ジャパン株式会社

操船技術の高度化を前提とした新たな船舶保険商品の開発を通して、事故発生時の社会的影響への対応を含めたリスクマネジメントを支援し、技術の社会実装を後押しします。

ソフトバンク株式会社

「安全離着岸支援システム」において、高精度測位サービス「ichimill」および通信ネットワークを提供します。

■今後の展望

今後は本基本合意に基づき、国内外の港湾および船舶運航事業者への導入拡大を見据え、これまでに蓄積してきた技術成果や知見を生かしながら、ソリューションの社会実装を進めていきます。また、技術導入とリスク管理を両立させる新たな枠組みの構築を通して、船舶自動運航の社会実装を加速させ、安全で持続可能な海上インフラの形成に貢献していきます。

以上